

令和 2 年 度

甘楽町各会計決算及び
基金運用状況の審査意見書

一 般 会 計

国民健康保険事業特別会計

介護保険事業特別会計

農業集落排水事業特別会計

公共下水道事業特別会計


後期高齢者医療特別会計

水道事業会計

甘楽町監査委員

甘監発第 9 号
令和3年 8月27日

甘楽町長 茂原 莊 一 様

甘楽町監査委員 山田 利和 

甘楽町監査委員 富岡 朝男 

令和2年度甘楽町各会計決算及び各基金運用状況の
審査意見書

甘楽町監査基準（令和2年監査委員告示第1号）、甘楽町監査基準実施要領、地方自治法（昭和22年法律第67号）第233条第2項及び同法第241条第5項の規定により、審査に付された令和2年度甘楽町一般会計及び特別会計歳入歳出決算及び証書類、その他政令で定める書類並びに各基金の運用状況を審査した結果、次のとおり意見を付します。

第1 審査の対象

1. 一般会計及び特別会計歳入歳出決算
 - 令和2年度 甘楽町一般会計
 - 令和2年度 甘楽町国民健康保険事業特別会計
 - 令和2年度 甘楽町介護保険事業特別会計
 - 令和2年度 甘楽町農業集落排水事業特別会計
 - 令和2年度 甘楽町公共下水道事業特別会計
 - 令和2年度 甘楽町後期高齢者医療特別会計
2. 令和2年度 甘楽町各会計歳入歳出決算事項別明細書
3. 実質収支に関する調書
4. 財産に関する調書
5. 各基金運用状況調書

第2 審査の期日

令和3年8月23日、24日、25日の3日間

第3 審査の手続

審査に当たっては、次の点に主眼を置いて実施した。

1. 地方自治法（昭和22年法律第67号）第233条第2項の規定に基づき、町長から送付された各会計の歳入歳出決算書及び地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第166条第2項に定める歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書及び各基金の運用状況を示す調書が関係法令に準拠して作成されているか。
2. 予算の執行が、関係法令並びに予算議決の趣旨に沿い、適正かつ効率的に行われているか。また、その処理が財務諸規定に基づいて処理されているか。
3. 決算及び付属書類の計算に誤りはないか。また、各計数は関係諸帳簿及び証拠書類の金額と符号するか。
4. 各基金の運用状況については、その計数が正確であるか。また、適正に運用されているか。

以上の事項を主眼点として審査を行った。なお、その過程において、必要に応じ担当課長等の説明を求めた。

第4 審査の結果

1. 審査に付された各会計の歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、その計数は正確であって、予算の執行状況は概ね適正であると認められた。
2. 各基金の運用状況を示す書類の計数についても、関係諸帳簿及び証拠書類と符合しており、誤りのないものと認められた。

なお、各会計の決算の概要と意見については、次に記述するとおりである。

第5 決算の概要

一般会計及び特別会計の決算概要は次のとおりである。

1. 一般会計（増減率は対前年度比）

（1）収支の状況及び財政の推移

一般会計の歳入歳出決算額は、歳入総額は75億3,275万7千円、歳出総額が72億2,517万1千円で、前年度と比較すると、歳入で38.8%、歳出では39.7%と大幅に増加した。

翌年度に繰り越すべき財源を差し引いた実質収支は2億4,127万9千円であり、令和元年度実質収支額を減じた単年度収支は6,368万8千円の黒字であった。加えて、財政調整基金に8,199万3千円、公共施設等整備基金に7,513万円を積み立てた結果、実質単年度収支は2億2,081万1千円の黒字となった。

歳入のうち地方交付税では、基準財政需要額の基となる補正係数や単位費用額が見直されたことなどにより、普通交付税が8.1%の増となったが、特別交付税は災害関連支出の皆減により28.8%の減となり、全体では6,972万1千円の増となった。また、町税では、固定資産税が1.2%増となる一方で、町民税は2.9%減となり、町税全体では前年比0.5%の減収であった。一方で、徴収率は0.2%改善され、97.4%となっている。国庫支出金は、新型コロナウイルス感染症対策の特別定額給付金等により18億681万円の大幅増となった。また、県支出金も、認定こども園整備事業等により1,363万3千円の増となった。繰入金では、甘楽ふるさと館備品等管理運営基金の繰入の皆減等で1億4,773万9千円の減となった。一方で、町債は、防災行政無線デジタル化整備工事等により3億487万1千円の増となっている。

歳出は、甘楽ふるさと館浴場改修工事の皆減等により、農林水産業費が1億6,439万7千円の減となったものの、特別定額給付金等により総務費が13億7,972万4千円の大幅増、商工費が2億7,587万9千円の増となっている。

財政の推移を前年度と比較すると、財政力指数は0.486から0.477へ低下し、財政の弾力性を示す経常収支比率は85.5%で0.4ポイント悪化した。また、臨時財政対策債発行可能額を含む標準財政規模は、37億6,102万2千円となり、1億9,709万3千円増加した。実質公債

費比率は前年より0.6ポイント悪化し、7.1%となった。

町債の本年度末残高は51億9,955万7千円で、前年度より1億1,322万7千円増加した。

(2) 財政運営の状況

① 歳入

歳入全体に占める依存財源と自主財源の割合は、前年度より依存財源の割合が大幅に増加し、それぞれ71.3%、28.7%であった。

なお、用途が特定されず、どのような経費にも使用することのできる経常一般財源は、地方交付税、株式等譲渡所得割交付金等の増加に伴い、前年度に比べ4.2%(1億4,588万5千円)増加している。

② 歳出

性質別の状況のうち、義務的経費では、会計年度任用職員にかかる給与等が物件費から人件費に性質変更となったこと等により、人件費が18.2%増加し、全体では前年比7.8%の増加となった。その反面、歳出全体に占める割合は27.9%となり8.3ポイントの減となった。

投資的経費は、防災行政無線デジタル化工事等により、32.3%の増加となったものの、歳出に占める割合は16.1%で、0.9ポイントの減となった。

その他の経費は、特別定額給付金の皆増等により67.0%増となり、歳出に占める割合は56.0%で、9.2ポイントの増加となった。

本年度借入の町債は4億9,647万1千円で、累積借入金残高は、前年度末に比べて2.2%増の51億9,955万7千円となった。

2. 特別会計（増減率は対前年度比）

(1) 国民健康保険事業特別会計

歳入決算額は15億4,527万2千円、歳出決算額が14億7,844万4千円で、歳入歳出差引額は6,682万8千円である。

前年度繰越金を差し引いた単年度収支は赤字となり、基金への積立金5万1千円を加えた実質的な収支では、2,605万3千円の赤字であった。

歳入は、国保税の収納額が3億4,776万4千円で、13.7%減となり、現年分収納率は97.2%で0.1%改善された。

一般会計繰入金は8,755万8千円で、歳入総額に占める割合は5.7%で、前年度より0.1%増加している。

歳出は、療養給付費と療養費で8億1,315万7千円となり、1.1%の減、歳出総額に占める割合は55.0%である。また、高額療養費は、1億2,674万8千円で、5.4%増加している。

(2) 介護保険事業特別会計

歳入決算額は12億7,483万2千円、歳出決算額が12億3,948万7千円で、歳入歳出差引額は3,534万5千円である。

第1号被保険者保険料の現年分収納率は、99.7%で前年度並みであり、滞納繰越分を含めた収納率は99.4%で0.1ポイント低下した。

歳出総額のうち、保険給付分は11億5,593万9千円で、これは歳出総額の93.2%にあたり0.3ポイント減となっている。

総合事業費分は、3,275万2千円、包括的支援事業・任意事業費は3,211万2千円であった。

(3) 農業集落排水事業特別会計

歳入決算額は1億3,244万6千円、歳出決算額が1億3,189万9千円で、歳入歳出差引額は54万7千円である。

城南・上野地区の接続率(戸数)が97.0%、天引地区の接続率(戸数)が83.8%、善慶寺・国峰地区の接続率(戸数)は78.8%であった。

3地区合計の処理場等の維持管理費は人件費も含めて3,917万4千円であり、町債の令和2年度末残高は5億8,917万8千円で、前年度より7,845万1千円の減となった。

(4) 公共下水道事業特別会計

歳入決算額は5億3,511万5千円、歳出決算額が5億3,450万1千円、歳入歳出差引額は61万4千円である。

事業費の主なものは、維持管理費として2,972万6千円、県央処理場維持管理負担金が4,647万3千円、建設費として汚水整備事業費2億3,447万3千円及び流域下水道建設費負担金280万4千円、元金・利子償還金の2億1,111万9千円であった。

認可面積は、令和3年3月31日に変更認可により11ha縮小し、516haとなり、整備済面積は434.8haで実施率(面積)は84.3%、年度末における汚水管路の延長は81,939mとなった。

町債の令和2年度末残高は22億9,943万8千円で、前年度より3,368万9千円減少している。

(5) 後期高齢者医療特別会計

歳入決算額は1億4,920万6千円、歳出決算額が1億4,813万2千円で、歳入歳出差引額は107万4千円である。歳入の主なものは保険料が1億54万1千円、一般会計繰入金が4,592万4千円で、保険料収納率は99.8%であり、前年度より0.1%改善した。

医療費の状況は、保険給付費が13億5,746万8千円、給付件数で4万6,052件、1件当たり平均は約2万9千5百円である。

前年度と比較すると、保険給付費は1.7%減となっている。

第6 財政健全化判断比率の状況について

一般会計及び特別会計の各会計は、いずれも実質収支が黒字であり、実質赤字比率及び連結実質赤字比率には該当がなく、健全財政であると認められた。

第7 審査における意見等

1. 一般会計

(1) 歳入について

町税の収納状況は、収納率が97.4%と昨年よりも0.2%上昇し、収入未済額も減少しているので、収納対策に成果が認められる。

しかし、今後も、悪質な滞納者に対しては、法的措置を講ずるなど、滞納金額の減少、収納率の向上に引き続き努力をお願いする。

また、不納欠損処分に至らぬよう、個々の状況を十分に調査のうえ、その処分については引き続き厳正に運用するよう要望する。

町債の発行は、安全・安心なまちづくりなどに必要な財源であるが、後年度の住民に負担を強いることのないよう、また、将来の安定的な財政運営の

ためにも、計画的な活用をお願いする。

(2) 歳出について

予算編成方針の趣旨に沿った事業運営に努力されていると認められる。

新型コロナウイルス感染症対策に伴う歳出についても適切に処理されていた。

今後も引き続き、社会情勢や厳しい財政状況をしっかり認識し、経費の節減に向け事務事業の簡素化・効率化を図り、費用対効果を考慮のうえ、補助事業の見直しにも積極的に取り組まれることをお願いしたい。

2. 特別会計（増減率は対前年度比）

(1) 国民健康保険事業特別会計

今年度は実質収支が赤字となり、被保険者一人当たりの保険給付費や高額療養費は今後も上昇すると思われ、厳しい運営が予想される。

歳入では、国保税現年分の収納率が改善されたものの、収納額全体では、被保険者数の減により減少している。今後も、賦課徴収等の強化により、収入確保に努められるよう要望する。

また、バランスの取れた事業運営を行うために、医療費の抑制及び健康意識の高揚を図り、財政の健全化に務めるようお願いしたい。

(2) 介護保険事業特別会計

65歳以上の人口に占める、要介護者の認定率は13.7%で、引き続き県平均の17.8%を大きく下回ったことは、予防・支援事業の成果と認められる。

要介護高齢者等が、可能な限り住みなれた地域で安心してらせるよう、適切なサービスの供給に努めるとともに、今後も介護予防・生活支援事業等に重点を置き、制度の充実と併せて介護保険財政の健全化を望むものである。

(3) 農業集落排水事業特別会計

汚水処理施設は、城南・上野地区が27年、天引地区は22年、善慶寺・国峰地区が17年経過により老朽化しているため、今後も、機能保全のため、

施設の改修・更新等が必要と見込まれる。事業化にあたっては財政を考慮した計画的な執行をお願いしたい。一方で、農業集落排水対象地区から公共下水道対象地区への切り替えについても引き続き実施されたい。

また、本事業は、多額の事業費を投入して実施したものであり、未接続者には早期に接続を行うよう、啓発を要望する。

(4) 公共下水道事業特別会計

平成5年から供用を開始した下水道事業は、建設事業費と併せて維持管理経費の増加が見込まれる。

建設に当っては、整備計画により、国庫補助金等の有効な活用と事業費の平準化をお願いしたい。

また、維持管理費の財源である使用料収入の増加のためにも、未接続者には早期接続を行うよう、継続的に啓発を要望する。

(5) 後期高齢者医療特別会計

歳入の主なものは保険料と一般会計繰入金である。

保険料収納率は、前年度より0.1%改善し、99.8%と高水準であり、収納対策の努力がうかがえた。

歳出の98.2%が運営主体の群馬県後期高齢者医療広域連合への納付金であり、法令等に基づき忠実に事務が執行されたものと認められる。

(6) むすびに

審査いたしました、一般会計並びに各特別会計は予算編成方針の趣旨に沿った適正な事業運営がなされ、新型コロナウイルス感染症関連及び繰越分の台風19号災害関連でも適切に対応し、健全財政に努力されたことが認められる。

今後も限られた財源のなかで、最小の経費で最大の効果をあげられるよう創意と工夫をもって予算執行をしていただきたい。特に令和3年度においては、新型コロナウイルス感染症の動向に引き続き注意を払いながら、最終年となる第5次総合計画「KANRAプラン・輝き」に沿って、積極的に事業に取り組まれるよう要望して、歳入歳出決算審査における意見とする。

甘監発第 7 号
令和3年 8月25日

甘楽町長 茂原 莊一様

甘楽町監査委員 山田 利和



甘楽町監査委員 富岡 朝男



令和2年度甘楽町水道事業会計決算審査意見書

甘楽町監査基準（令和2年監査委員告示第1号）、甘楽町監査基準実施要領及び地方公営企業法（昭和27年法律第292号）第30条第2項の規定により、令和2年度甘楽町水道事業会計収入支出決算及び証書類を審査した結果、次のとおり意見を付します。

第1 審査の対象

1. 令和2年度甘楽町水道事業会計決算
2. 現金・預金通帳の残高

第2 審査の期日

令和3年 7月28日（水）

第3 審査の方法

1. 町長から提出された決算書の中で、収益的収入及び支出・資本的収入及び支出・損益計算書・剰余金計算書・剰余金処分計算書・貸借対照表等の各調書が法令に準拠して作成されているか。
2. 財政運営は健全か、予算が適正かつ効果的に執行されているか。また、その処理が財務諸規定に基づいて処理されているか。

3. 決算書及び付属書類の計算に誤りはないか。また、各計数は関係諸帳簿及び証拠書類の金額と符号するか。

以上の事項を主眼点として審査を行った。なお、その過程において、必要に応じ担当課長等の説明を求めた。

第4 審査の結果

1. 審査に付された決算書の中で、収益的収入及び支出・資本的収入及び支出・損益計算書・剰余金計算書・剰余金処分計算書・貸借対照表等各調書は、法令に準拠して作成されていた。
2. 計数は、関係帳簿及び証拠書類と照合した結果、地方公営企業関係法令及び財務諸規定に従って適正に執行がなされていることが認められた。

第5 決算の概要

(1) 決算の状況について

令和2年度の収益的収入の決算額は、240,237千円で、対前年度比1.59%の減少であり、その要因は、給水収益の減少となっている。

収益的支出の決算額は、209,655千円で、対前年度比6.61%減少している。主な費用は、修繕費10,501千円、固定資産減価償却費122,710千円、企業債利息13,554千円、動力費5,175千円、薬品費7,014千円、人件費28,337千円で、総収支比率は、114.59%であり、当年度の純利益30,582千円となり、対前年度比10,958千円の増加となっている。

資本的収入の決算額は、319,636千円で、企業債の借入金等の増額により対前年度比で317,859千円の大幅増となっている。

資本的支出の決算額は、486,691千円で対前年度比306.06%増加した。内訳は、建設改良費が423,233千円で前年度より318,147千円の増加となり、企業債償還金については、63,458千円で前年度より9,524千円増加している。

企業債の年度末残高は52件で、1,175,551千円となり、前年度より252,142千円の増加であった。

資本的収入額が資本的支出額に対して167,055千円不足になって

いるが、この不足額は過年度分及び当年度分損益勘定留保資金、建設改良積立金及び当年度消費税・地方消費税資本的収支調整額で補てんを行っている。

(2) 主要事項について

本年度末の給水人口は、1万2,785人で、前年度より208人減少した。

年間有収水量は、164万9,116 m^3 で、対前年度比0.44%減少した。なお、有収率は、77.38%で、対前年比0.15%の減少となっており、経年劣化による配送水管の老朽化や令和元年台風19号による災害も影響している。今後も有収率の低い配水系統で重点的に漏水防止対策等を図る必要がある。

建設工事の主なものは、白倉浄水場の大規模改修事業、下水道関連事業及び単独事業における福島・上野地区の老朽管更新工事等を実施した。

また、安全で良質な水の安定供給のために、各浄水場並びに水源の維持管理等を実施し、それぞれ適正に執行されていた。

第6 資金不足比率について

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」の規定に基づき、公営企業会計に係る資金不足比率を算定したところ、実質黒字のため該当が無く、健全財政であると認められる。

第7 審査における意見等

- (1) 有収率は、令和元年台風19号による配送水管の損傷等の影響もあり、前年度より若干低下しているため、引き続き漏水防止対策を強化し、有収率の向上をお願いしたい。
- (2) 水道料金の滞納額は増加した。新型コロナウイルス感染症の影響による収入減に伴う納付猶予を十分考慮したうえで、健全財政並びに公正公平な立場からも、引き続き適正な給水停止の執行と徴収を要望する。
- (3) 施設の老朽化対策にあたっては、財政を考慮した計画的な修繕と建設改良工事をお願いする。そのためには、企業の経営感覚と原価意識を持って、経営の合理化と経費節減に努力されるよう留意願いたい。特に今年度は、白倉第一浄水場改修工事が完成するため、工事費用の適正な支出に配慮願いたい。

い。

むすびに、今後とも、健全財政を堅持しつつ、安全でおいしい水の安定供給に向けて、より一層の工夫と努力を望み、意見とする。